

(財)女性のためのアジア平和国民基金

第21回理事会

平成8年11月

財団法人女性のためのアジア平和国民基金

三者合同懇談会並びに第21回理事会

平成8年11月7日

【報告および議題】

1、評議員の選出について

2、寄付行為の変更について

3、運営審議会（10月29日）の報告

（1）各國／地域での償い事業の現状と今後の取り進め方

イ、韓国

ロ、フィリピン

ハ、台湾

ニ、インドネシア

（2）その他

4、「慰安婦」関係資料委員会（11月1日）の報告

基金の統一見解について

5、教科書問題について

6、基金対外公表文書の形式について

7、Japan Times(11月3日) 記事について

8、大阪での報告集会（11月29日）について

9、募金状況

10、その他

添付資料一覧

三者合同懇談会並びに第21回理事会

財団法人女性のためのアジア平和国民基金
平成8年1月7日

- ①韓国報道ぶり… 1~6
- ②フィリピンチーム報告… 7
- ③「慰安婦」関係資料委員会の決定事項… 8~9
- ④教科書問題について声明文（案）… 10~14
- ⑤対外公表文書の形式と決裁方式… 15
- ⑥大阪での報告集会について… 16
- ⑦募金状況… 17
- ⑧基金関連報道記事等… 別添

(韓国) 96.11.1

アジア女性基金（元慰安婦の死亡；報道）

1日付韓国日報は、元従軍慰安婦の文玉珠（ムン・オクス）氏の死亡に関するコラムを掲載しているところ、内容以下のとおり。

去る26日未明、元従軍慰安婦の文玉珠氏（72歳）は、大邱でその恨み多き生涯に別れを告げた。腎不全及び慰安婦であった時に患った脊髄の持病が死因であった。大部分の慰安婦がそうであったように、文氏には直系家族がなく寂しく目を閉じた。これにより、生存している慰安婦は、160名となつた。

16歳の時、慰安婦として連行された文氏は、去る5月、日本の裁判所において「所属部隊は、「8400部隊司令部」であった」旨証言するほど記憶力ははっきりしていた。文氏は、慰安婦生活の苦痛に耐え切れず、酒を飲み司令部3階から飛び降りて脊髄を痛めたという暗い体験を語ったりもした。日本の「女性のためのアジア平和国民基金」による賠償（ママ）を拒否した文氏は、周囲の無関心の中、政府から支給される月25万ウォンでやっと暮らして來た。死に至るまで、周囲の人に病気を隠さねばならない状況であった。孤独に満ちた彼女の死に関しても、韓国のマスコミよりはむしろ日本のマスコミの方が関心をもって報じている実情である。

生存している元従軍慰安婦の平均年齢は71歳である。今後も、文氏の後を追う人が増えると予想される。非常に貧しい暮らしの中においても、名誉回復だけを期待し暮らしている。これは、彼女たちにとっては、未だに戦争が終わっていないことを意味しており、これに区切りを付けるのは、我々全ての責任である。

日本政府は、お金に物を言わせ、苦しい生活をしている彼女たちの心を揺り動かしている。これに比べ、我々は、何か問題が起こった時にだけ関心を持つ一方で、彼女たちに名誉回復のため苦しい生活に耐えるよう求めている。彼女たちがプライドを持って闘争できるよう、生活を支援してあげることが急務である。元従軍慰安婦の名誉回復のために努力した文氏の死でさえも、日本側の方がより大きな関心を寄せている現実に対し、我々は恥かしいと思うべきである。

(韓国)

96.11.1

アジア女性基金（梅田ア地政長の「挺対協」訪問；「市民連帯」プレスリリース）

31日、「市民連帯」尹美香（ウン・ミヒャン）は、「日本政府の偽善と欺瞞、再び確認」と題するプレスリリースを当館にも送付越したところ、右内容以下のとおり。

我々は、最近、日本軍「慰安婦」犯罪に対する日本政府の立場を再度確認した。まさに欺瞞的かつ偽善的であった。我々は、改めて日本政府のかかる態度を国際社会に知らしめ、抗議するものである。

1. 日本政府は、依然として国連の決定を無視し、「被害者の痛みを共にしたい」という偽善的かつ欺瞞的なリップサービスで法的な責任を回避し、被害者には民間募金による慰労金支給で日本軍「慰安婦」犯罪を糊塗しようとしている。我々は、国連の決定を排斥する日本政府の態度を強力に糾弾する。

当会は、10月26日に訪韓した日本外務省のアジア地域政策課長の梅田氏の面談要請を受け入れ、10月28日（月）当会事務室で、日本大使館政治部一等書記官の森本氏と共に梅田課長に会った。我々は、その面談において、日本政府の偽善的かつ欺瞞的な立場を再び確認した。

梅田課長は、今まで日本政府が日本軍「慰安婦」犯罪に対して堅持してきた立場をそのまま繰り返した。それは、第一に、日本政府としては絶対賠償できないということである。その代わりに、ハルモニの痛みを分かち合うために「国民基金」を推進しているという。第二に、日本政府が医療、福祉支援事業費として支払うことに決めた7億円（一人当たり約300万円）も絶対被害者個人に現金で支給するものではなく、「国民基金」を通じて被害者の医療、薬代等に使うサービス名目であるとガバ。かかる日本政府の立場を明確にするために、面談を要請したことである。

国連人権委員会及びILO等は、日本軍「慰安婦」制度が国際法に違反しており、非人道的な犯罪である旨既に確認した。なお、日本政府に対し被害者に対する国家賠償等を履行するよう勧告している。にも拘らず、日本政府は、これを遵守せず、却って欺瞞的かつ偽善的な方法である「国民基金」で日本政府の犯罪を隠蔽し、法的責任を回避しようとする行為を続いている。

これに対して、我々は、日本政府のかかる態度を国際社会に知らせるとともに強力に抗議する。

2. 我々は、日本の欺瞞的かつ偽善的な国民基金を絶対受け入れない。日本軍「慰安婦」問題に対し国家賠償を望む良心ある国内外の民間人と意を共にし、10月18日に発足した本市民連帯の募金運動を積極的に展開し、一刻も早くハルモニに対する慰労と福祉を担当していく所存である。同時に、日本政府に対し、法的（責任の）認定及び犯罪に対する法的な責任を果たすよう促しつつ、圧力を行使していく所存である。

顧問：金守煥（キム・スホアン）、宋月珠（ソン・ウォルス）、朴景利（パク・ギョンニ）、洪彰義（ホン・チャンイ）、姜元龍（カン・ウォンニヨン）、安炳茂（アン・ビョンム）、邊衡尹（ビョン・ヒョンユン）、李（イ）・ヨンオク

諮詢：姜萬吉（カン・マンギル）、姜（カン）・ムンギュ、姜（カン）・スンウォン、金（キム）・ドンホ、金（キム）・ムンスク、金（キム）・サムホアン、金祥根（キム・サングン）、金性洙（キム・ソンス）、金（キム）・ヨンホ、金燦國（キム・チャングック）、盧（ノ）・スンスク、朴（パク）・サンジュン、朴婉緒（パク・ファンソ）、孫鳳鎬（ソン・ボンホ）、申庚林、吳（オ）・グィホアン、オク・ハンウム、ユ・ヒョンソク、李萬烈（イ・マンニョル）、李世中（イ・セジュン）、李在貞（イ・ジェジョン）、李効再（イ・ヒョジエ）、イン・ミョンジン、全（チョン）・ビヨングム、鄭求英（チョン・グヨン）、池（チ）・ミョンガン、崔（チエ）・ヨンシル

国会議員諮詢委員：權秀昌（クォン・スチャン）、金謹泰（キム・グンテ）、金星坤（キム・ソンゴン）、金仁坤（キム・インゴン）、金鍾學（キム・ジョンハク）、金浩一（キム・ホイル）、金洪信（キム・ホンシン）、邊精一（ビョン・ジョンイル）、徐錫宰（ソ・ソクチエ）、申棄均（シン・ナクギュン）、李健介（イ・ゴンゲ）、李富榮（イ・ブヨン）、李聖宰（イ・ソンジェ）、李美卿（イ・ミギョン）、李佑宰（イ・ウジェ）、張永達（チャン・ヨンダル）、諸廷土丘（チエ・ジョング）、韓英愛（ハン・ヨンエ）

共同代表：金鍾林（キム・ジョンニム）、金（キム）・ヒウォン、朴（パク）・インサン、ボッタ僧侶、成鳳熙（ソン・ボンヒ）、吳在植（オ・ジェシク）、尹貞玉（ウン・ジョンオク）、李女燕蔽（イ・ヨンスク）、全大連（チョン・デリョン）、池（チ）・ウニ、崔（チエ）・ヨンド

執行委員長： 金（キム）・ソンジェ、尹（ウン）・ヨンエ

96.11.1

アジア女性基金（李壽成国務総理の国会答弁：報道）

（韓国）

31日午後配信の連合通信は、国会本会議における李壽成（イ・スソン）国務総理の從軍慰安婦問題に関する発言につき報じているところ、内容以下のとおり。実際の発言内容については、現在外務部を通じ確認中なるも、とりあえず。

31日、李壽成国務総理は、日帝下の軍隊慰安婦問題（ママ）に関し、「日本政府は、日本の総理の書簡を同封した200万円の「国民基金」を支給する方法で、慰安婦問題を解決しようとしているが、必ず被害者及び関係団体が受け入れる方法でなければならないというのが韓国政府の確固たる方針である。」と述べた。同日、李総理は、国会の社会・文化分野の対政府質問への答弁を通じて、軍慰安婦問題に関する日本政府の解決方法に対して、事実上拒否の立場を示唆し、「韓国政府は、日本政府に（被害者及び関係団体が受け入れられるような方法での）問題解決を一層強く要求する。」と付け加えた。

96.10.29

アジア女性基金（「市民連帯」：報道）

（韓国）

当地週刊誌「ハンギョレ21」（第131号、10月31日付）は、「市民連帯」の募金活動に掲載しているところ、内容以下のとおり（原文は別FAX公信にて送付）。

見出し：「挺身隊（ママ）」ハルモニ（おばあさん）、我々が守ろう。

「ハンギョレ21」が「全民族救援運動」を開始。

「ハンギョレ21」は、「挺身隊」問題の正しい解決のための市民募金運動を始める。

我々が創刊以来初めて募金運動の形で「ハルモニ支援」運動を開始する趣旨は下記の通りである。

ご存じか。

既に、国連人権小委員会は、挺身隊問題を「性奴隸」、「犯罪行為」と断定し、日本政府の責任ある措置を要求する勧告案を提出した。その結果はどうか。日本政府は、公式謝罪及び法的賠償を拒否した。民間募金の形で作った「女性のためのアジア平和基金」（ママ）を通じて、被害を受けたハルモニに慰労金（ママ）として2百万円ずつ支給する旨述べるだけである。橋本総理が率いる自民党が総選挙で大勝した今、「挺身隊ハルモニ」の気持ちは日本で如何に扱われどのような反響を受ける

であろうか。

最大の被害を被ったハルモニ達は、我々がこれまで忘却している中で、再び勇気ある決断を下した。老衰し、病み、生活苦にあるが、民間団体を楯にして法的責任を回避しようとする日本政府の態度を受け入れられないとして、「基金」の受け取りを全面的に拒否したのである。一ヶ月に生活補助金2~5万ウォンを(韓国)政府から受けるだけで、我々の直んだ意識のために、最も身近な人々から目を背けられ、被害ばかり被ってきた。そのため、歴史の痛みを今も一人だけで背負わねばならない方々。しかし、この方々は、現在、日本政府に対し次のように叫ぶ。

「我々の名譽と人権を再び踏みにじるな。」

この問題を正しく解決し、昇華させることにより、東アジアの新しい生きる道を切り開くことを提示してきた金ヨンホ教授(慶北大学経済学)は、「ハンギョレ21」第124号(9月5日付)に掲載した公開書簡を通じて、「挺身隊ハルモニを助ける国民的な募金運動及び21世紀のための東アジアマーシャルプランを提案」した。

そして、韓国挺身隊問題対策協議会の李効再(イ・ヒョジエ)共同代表は、第125号(9月12日付)への特別寄稿において、「民間団体を楯に法的責任を回避しようとする日本政府の計略を熱い募金運動で粉碎し、挺身隊ハルモニを助ける運動をアジアの市民連帯運動にまで導こう。」と訴えた。

そのとおりである。

我々がよく知らないうちに、歴史の大事業がこうして行われていた。

寂しいだけではなかったことを意味する。

去る10月18日、ソウルのキリスト教会館において、「日本軍により強制連行された慰安婦問題の正しい解決のための市民連帯」(常任代表:吳在植(オ・ジェシク))が発足した。日本政府が真相調査及び賠償のための特別法を制定し、過去の植民地帝国主義の罪科を徹底的に精算するよう要求し、「従軍慰安婦」被害者の犠牲を民族の力で治癒するために、生活基金を集め事業を体系的に推進する意を明らかにしたのである。

この志に本当に多くの方々が参加した。「市民連帯」は、金守煥(キム・スホアン)、宋月珠(ソン・ウォルジュ)、朴景利(パク・キョンリ)、洪彩義(ホン・チャンウィ)、姜元龍(カン・ウォンヨン)、安炳茂(アン・ビョンム)、辺衡尹(ビョン・ヒョンユン)、李ヨンオク等を顧問として迎えた。そして、この社会を少しでも明かるくするために力を注いでいる方々が諮問委員、共同代表、執行委員として働いている。

「ハンギョレ21」は、かかる「市民連帯」運動の志を積極的に受け入れ、「挺身隊ハルモニ」を助けるため、全民族の心を寄せた運動を行おうとしている。

金（キム）・ヨンホ教授が提案したとおり、もし、この募金が我々の正しい志を未来志向的に結びつけ、日本に対する技術従属から逃れるための「技術開発基金」に発展させることができればより良いだろう。

金額の多い少ないにかかわらず、歴史の苦痛を専ら一人で背負わなければならなかつた方々のため、民族の精気と歴史を正し、未来を切り開くためには志を共にする方々の積極的な参加を少しでも期待する。

そして、「ハンギョレ21」の制作者は、創刊以来、初めて実施するこの小さな「真心集め」の意志を一層明らかに示すとの意味から、先ず自ら小さな募金を実施したことを明らかにする。未来に向けてたゆまなく尽力する方々のために「ハンギョレ21」は常に開かれている。

口座番号 朝興銀行 308-03-007980 市民連帯

郵便局 010033-0142229 市民連帯

・本募金運動の志を明らかにするため、募金の真心を表す内容を手紙又はファックスで伝えてください。

速報。志はこのように集っている。

秋夕（旧盆）を前にして、金ヨンホ慶北大学教授をはじめとして、嚴（オム）・チャンオク サンジュ産業大教授及び慶北大学院の李（イ）・チョジヒ、洪（ホン）・ジングン、李（イ）・ヨハン、金（キム）・ヨンギュン氏等が李（イ）・チョンソン「挺対協」大邱支部長と共に、大邱地域の「挺身隊ハルモニ」を次々に訪問した。彼らは、ハルモニの意に対して感謝と慰労の言葉を述べ、募金と金ヨンホ教授及び李効再「挺対協」共同代表の特別寄稿が掲載されている「ハンギョレ21」を伝達した。

鄭（チョン）・ソクジョン（嶺南大学教授）10万ウォン（病気により原稿を書ける状態ではないため、月給から捻出）

金（キム）・ギョンヒ（知識産業社代表）10万ウォン（コラム原稿料）

朴（パク）・ジョンオ（韓国企業技術研究院）10万ウォン（講演料の一部）

金（キム）・ヨンホ（慶北大教授）30万ウォン（原稿料及び大学特講料より）

<ハンギョレ21>制作者 84万ウォン（講演料及び原稿料等）

第二回『慰安婦』関係資料委員会の決定事項

(1) 委員長、副委員長、顧問について

委員長、副委員長、顧問については、下記のように決まりました。

委員長 高崎 宗司

副委員長 和田 春樹

顧問 衛藤 潤吉

(2) 「『慰安婦』関係資料委員会」の今後の進め方

別紙①のように今後の進め方を確認した。

5年間のスケジュールについては、とりあえず今年度のプロジェクトチームを決め、来年度以降については別途今年度の進行などをみながら決定する。

(3) 今年度の進め方

①プロジェクトチーム

今年度については、6つのプロジェクトチームの設置が提案され、次回の会議で具体化し決定することになった。

②刊行について

今年度の刊行を下記のように行うこととなり、担当を後藤乾一委員にお願いすることになった。

(イ) 今年度の刊行（案）

今年度中に、下記の刊行を行う

・第1次、第2次政府調査発表資料の復刻版

A5版、上下2巻、各600ページ、部数300部

・「慰安婦」問題、総合文献目録

A5版、100ページ、部数2,000部

(ロ) 今年度のプロジェクトチームの報告書はできたら行う

「慰安婦」関係資料委員会の今後の進め方（案）

「慰安婦」関係資料委員会の今後の進め方は、5年間を目標に、各年ごとに「国内外の行政機関、図書館、史料館での史資料の閲覧と収集」の課題別のプロジェクトチームと「聞き取りの調査」のプロジェクトチームを設置し、「アジア女性基金」の委託事業として今後進め、その活動の報告書はじめ史資料等の刊行の事業を行っていくこととする。

①「国内外での史資料の閲覧と収集」のプロジェクト

調査対象などの優先順位にもとづいて、5年間のスケジュールを策定し、今年度のプロジェクトチームを決定する。

②「聞き取り調査」のプロジェクト

「被害者」、「その家族などからの裏付け」、「関係者」の3つのカテゴリにわけ聞き取り調査を有効に行う。

③刊行

「慰安婦」関係の史資料等の刊行を行うこととし、特にプロジェクトチームの報告書は隨時行っていく。

大阪集会（11月29日）について

事務局案

アジア女性基金主催で東京で、9月11日に行った「報告集会」を、「大阪で開催したい」という要請もあり、11月29日に下記のように行なうことで現地と調整ができました。

つきましては、アジア女性基金の理事、運営審議会委員、呼びかけ人の方々に大阪に、行っていただくように考えていますので、ご協力を願いします。

【大阪集会の要綱】

主 催 アジア女性基金

名 称 「アジア女性基金—現状とこれから」

日 時 11月29日（金）午後6時15分から

場 所 大阪リバーサイドホテル（JR桜ノ宮下車）

住所 大阪市都島区中野町5-12-30

電話 06-928-3251

なお、大阪の往復の新幹線は下記の時刻を予定しています。

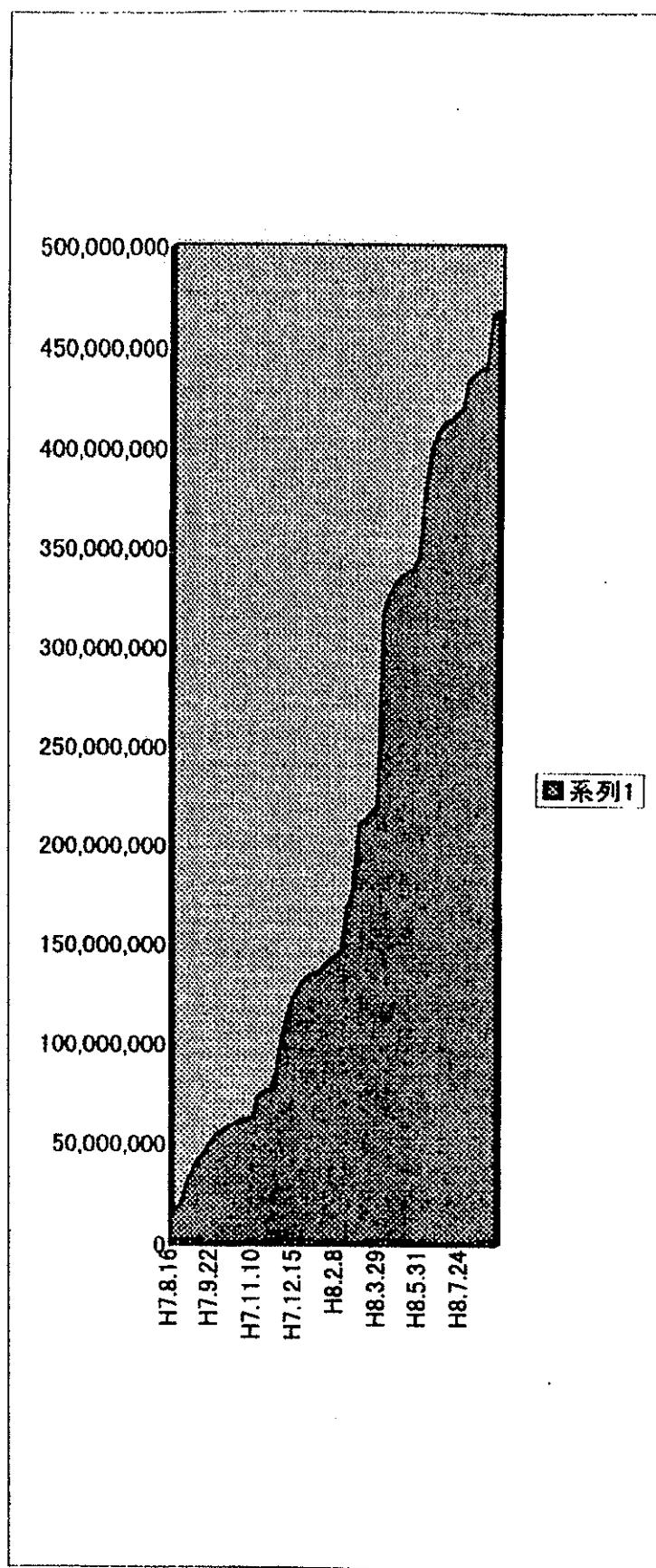
往 11月29日 東京発14時56分 大阪着17時26分 のぞみ 19号

復 11月30日 大阪発9時51分 東京着12時21分 のぞみ312号

日程の都合で日帰りで帰られる場合は、下記の列車を予定しています。

11月29日 大阪発21時18分 東京着23時48分 のぞみ304号

H7.8.16	14,549,933
H7.8.18	17,655,449
H7.8.23	20,699,583
H7.8.25	32,235,924
H7.9.1	37,880,269
H7.9.8	43,139,044
H7.9.14	44,756,983
H7.9.22	50,191,561
H7.9.29	55,049,281
H7.10.6	56,912,959
H7.10.13	58,530,501
H7.10.20	60,711,987
H7.10.27	61,431,606
H7.11.2	61,855,390
H7.11.10	63,540,711
H7.11.17	74,632,828
H7.11.20	76,093,148
H7.11.24	77,374,038
H7.12.1	85,879,400
H7.12.6	102,842,555
H7.12.8	116,515,222
H7.12.15	124,568,767
H7.12.22	129,069,461
H8.1.4	133,754,507
H8.1.12	134,990,889
H8.1.18	135,948,788
H8.1.26	139,971,669
H8.2.2	142,987,169
H8.2.8	144,457,949
H8.2.16	146,851,262
H8.2.23	168,591,616
H8.3.1	176,112,186
H8.3.8	211,214,928
H8.3.15	213,432,168
H8.3.22	217,213,915
H8.3.29	221,177,740
H8.4.12	318,853,124
H8.4.19	326,750,897
H8.4.26	332,825,585
H8.5.10	336,291,308
H7.5.17	338,441,721
H8.5.24	340,072,943
H8.5.31	347,011,005
H8.6.7	378,154,182
H8.6.13	401,254,182
H8.6.28	408,647,704
H8.7.5	413,365,600
H8.7.10	414,738,485
H8.7.18	418,231,279
H8.7.24	419,836,382
H8.7.31	434,527,446
H8.8.8	437,324,404
H8.8.17	439,813,370
H8.8.22	440,004,221
H8.10.16	467,417,453
H8.11.1	467,604,680



Bunshun Opinion Magazine

諸君!

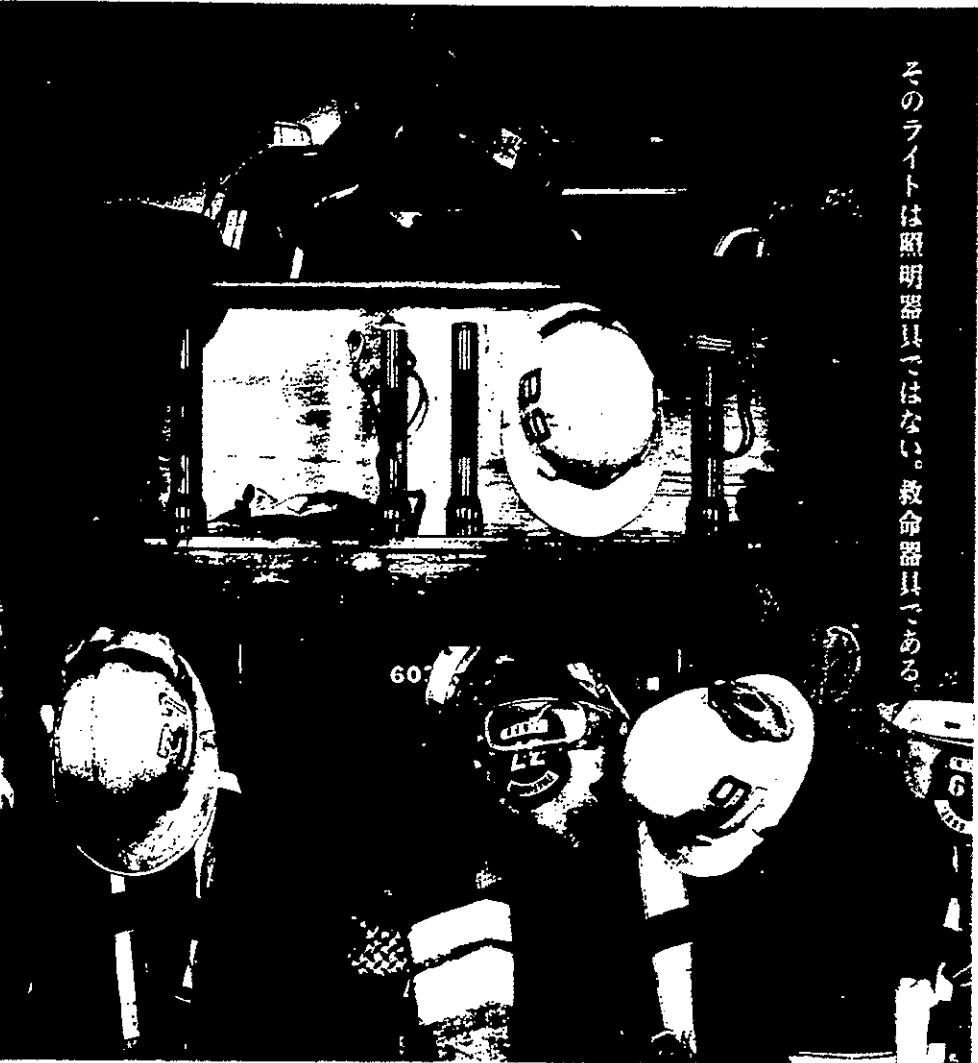
総力特集・総選挙と日本の未来

"THE SHOKUNI" December 1996 vol.28 No.12 Published Monthly by BUNGEISHUNJU Ltd. Tokyo, JAPAN.

新規第44号
昭和61年12月2日発行
郵便第12号
12月1日発行
定価640円(本体611円)

諸君! (第28巻 第12号)

定価640円(本体611円)



ミニマグライト A.A 全長14.5cm 単三×2 金6色
マグライトシリーズ 全長8.8cm~14.5cm 全12種類

世界が手にしたハンディライト

 **MAG-LITE**

三井物産株式会社 電気産業部 版元 株式会社エイアンドエフ 03-3209-7575 株式会社サンジエルマン 03-3824-1667
三宝商事株式会社 03-3662-5551 株式会社日立リビングサプライ 03120-880228

そのライトは照明器具ではない。救命器具である。

リスは、公娼中心から私娼中心の段階に入っていたこと、世論とくに故国の女性の監視がきびしかったこと、軍内部からの抵抗も存在したので、慰安所の設置や公娼の公然たる利用は困難だった。

そこで現地人女性をふくむ私娼の利用を黙認する方向に傾いたが、その代り性病患者の増大は避けられなかつた。戦勝国としての余裕があつたので、我慢できたともいえる。

また婦人部隊の兵士（ヒーク時にはアメリカは二十六万人）やナースに代替役割が期待された。

この点でお行儀が悪いと定評があつたのはアメリカの将軍たちで、アイゼンハワー元帥の専属運転手だったイギリス人女性兵士（慰安）は現地妻の役目を果したし、マッカーサーの參謀長サザーランド将軍は、やはり東州人女性兵士の専属秘書をつれて日本へ進駐してきた。

ミュージカル「南太平洋」では、登場する魅力的なナースのヒロインに、荒くれ水兵たちがどよめくが、「どうせ士官しか相手にしてくれないよ」とヤケ氣味に歌うシンがある。

その米兵たちも前線で半年戦うと、後方

ベルリント占領下のドイツ日記（朝日新聞社、一九八八、英訳版は一九四六）が詳しい。

一段落したあと、医師たちは「ベルリンの全女性の五〇パーセントが強姦され、一〇パーセントが性病にかかつた」との報告

書を前に、墮胎を禁じた刑法を守るべきかどうかで議論を重ねる。「おろした子の中にゲーテがいるかも、いやヒトラーだって……」と論じあつたようだが、キリスト教の影響が薄い敗戦日本の場合は、事務的に処理された。

洲から朝鮮半島経由で博多へ引きあげてきた日本女性の妊娠者は、博多の医師たちが当局の黙認下に開いた特別検診所で、ためらわざず堕胎した。ソ連軍がレイブに走った一因は、スター・リン時代の連前で、本国に公娼も私娼も存

時代の歩みを読む
NHKブックス

時代の歩み 知的障害者権利の30年

著者はどのように彼らの世界を発見し、次々入退し、メイドの美術館に永久収蔵されるまでの長い苦難の記録。

人間のもう譲らない可憐性について語りかける。

NHKブックス

〒130-31 東京都渋谷区宇田川町41-1

の豪州で休暇を楽しめたが、ドルの威力になびく出征兵士の妻たちの浮気を聞いて、ニューギニア戦線の夫たちは気が気でなかつたという。

東京へ進駐してきた米軍兵士には、至れりつくせりの好運が待つていた。敗戦国日本内の内務省が設置したRAAは大森や吉原に慰安所を開き、高給と米兵のプレゼントが波瀾になつた実情は、ドウス昌代さんの著書に詳しい。

このように慰安所型やレイプも混るとは言え、米英軍は当時のわが国におけるソーブラントや「援助交際」と同様に、擬似的

も五百カ所（サイトラー）と似た規模で、慰安婦の主力を占めたのは前者が朝鮮の、後者はボーランドの女性だった。

両者を比べてみると、開設の理由から暫く慰安所の仕組みまで且つなのだからよく

在しなかつたせいであろうか。四年前に日本は朝鮮は一年早く終っていたら、対

頃、モスクワのTVで元将軍が「日本軍のように戦士の面倒見をよくしていたら、対

本の慰安婦問題が全世界をかけめぐった

頃、モスクワのTVで元将軍が「日本軍のように戦士の面倒見をよくしていたら、対

本の慰安婦問題が全世界をかけめぐった

頃、モスクワのTVで元将軍が「日本軍のように戦士の面倒見をよくしていたら、対

本の慰安婦問題が全世界をかけめぐった

トした話もある。

さて以上のような実情をふまえて、「身の上話」の検証に入るが、サンブルにえらんだのは、すでに日本の裁判所へ訴訟を提

起している慰安婦で訴状が入手できたらもの、とくに詳細な身の上話を刊行されている事例である。

北朝鮮、台湾、インドネシア、マレーシアなどについては、該当する女性が見当らないし、紙数の制限もあるので、韓国、中

國のものと見られるが、被公事務にひき出されたのが、福祉や教育のあり方

が、同じ本能を持つ人間が類似の機能を考えすれば、似たりよつたりになるのは当然ともいえる。

日本もドイツも、平時から本国で同じよう公娼・管理売春制が定着していたので、戦地だと監査役が警察から軍に肩代りするだけなんだ。

わが国と違つてドイツでは最近まで慰安所制度の存在自体を知る人が少なく、実態の解明はおくれているが、最近になって国防軍用だけでなく、アウシユビツツなど強制収容所の囚人向け、外国人強制労働者用

の慰安所があつたことも明らかにされつづある。（クリスター・パウル『ナチズムと強制充電』、一九九六、を参照）

レイプ型戦争にはレイプはつきものだが、國や軍の幹部が半公然とレイプによる「撲滅」を奨励したのはソ連軍ぐらいか、

と思つていたら、田ユゴの内戦で「民族淨化」を名目とする組織的レイプが起き、国際裁判にかかっている。

そのソ連軍が第二次大戦末期のドイツで、自身も被害に遭つたルース・フリードリヒ（彼女は女性ジャーナリストの「暴君、闘争、フライリヒンの三国に限定した。）

清州で、大規模なレイプをくり広げた話はすでに知られているが、ベルリンの惨状は

そのソ連軍が第一次大戦末期のドイツと

清州で、大規模なレイプをくり広げた話はすでに知られているが、ベルリンの惨状は自身も被害に遭つたルース・フリードリヒ（彼女は女性ジャーナリストの「暴君、闘争、フライリヒンの三国に限定した。）

〈表1〉金学順証言の異同

	A	B	C
a生年	1924	同左	1924・10・20
b父の死亡事情	事情は不明	独立運動家で日本軍に撃たれ死亡	死因は知らない
c母の再婚	14歳の時に再婚	母の再婚を嫌い家出	Bと同じ
dキーセン	母が40円でキーセンへ売った	養女としてキーセン修業3年	平壤の「妓生券番学校」に3年通う
e中国行きの事情	1941年中国へ行けば稼げると養父に言われ	お金を稼ぐため養父につけられ	養父が金もうけをしようと中国へ同行
f慰安婦にされた事情	北京の食堂で日本将校にスパイと疑われ養父と別々に、そのままトランクで慰安所へ。処女を奪われた	Aと同じ（中国語ができるので中共軍の密偵役もやった）	養父をおどして日本兵が慰安所へ連行、3ヶ月後に趙の手引で脱走
g脱走と結婚	4ヶ月後に朝鮮人アヘン商人の手引で脱走、42年上海で金貸し	Aとほぼ同じ（上海で韓国独立の光復軍と連絡）	Aと同じ
h現在の心境	私をこんなにした奴らをズタズタに引き裂いてしまいたい	日本政府が悪かったと謝罪しない限り、私の気持ちちは晴れません	体験を暴露して、スッとした気持ちはなりたかった

A 抗日協議「証言強制連行された朝鮮人軍慰安婦たち」の証言

(原著は93年2月、邦訳は93年10月刊行、ヒアリングは92年以前か)

B 解放出版社編「金学順さんの証言」(93年2月刊行、91年12月来日時の金証言)

C 伊藤孝子編「証言從軍慰安婦女子勤労挺身隊」(92年8月刊行、伊藤のヒアリング日時は不明)

手なPR活動もあって、慰安婦だけがクローズアップされ、今も继续中のこの裁判を新聞は慰安婦訴訟と呼ぶことが多い。

ここでは、第一号の金学順の申告を訴状から、本人の一代記が單行本になった文玉珠の身の上話を要約紹介し、問題点を検討してみよう。兩人とも、訴状のほかに二、三のヒアリングがあり、内容にかなりの異同があるので比較表を作成した。

金学順の申告（訴状から）

一九二三年中国東北（瀋陽）の吉林省に生れたが、生後まもなく父が死亡したので平壤（ピョンヤン）へ戻った。母は家政婦などをしていたが、貧困のため学順は小学校を四年で中退、金泰元の養女となり、十四歳から三年間キーセン（妓生）学校に通つた。

一九三九年、「金儲けができる」と説得され、養父に連れられ中国へ渡った。北京を経て鉄壁鎮という小集落で養父と別れて慰安所へ入れられ、日本軍兵士のために性サービスを強要された。軍医の検診があつた。同じ年の秋、知り合った朝鮮人商人（趙某）に頼んで脱出し、各地を転々としたのち、上海で夫婦になつた。

フランス租界で中国人相手の質屋をしな

がら生活、二人の子を得て終戦の翌年、韓国へ帰った。朝鮮戦争中に夫は事故死、子も病死し、韓国中を転々しながら酒、タバコのむような生活を送つた。身寄りのない現在は政府から生活保護を受けてい

る。人生の不幸は、軍隊慰安婦を強いられたことから始まつた。日本政府は悪かつたと認め、謝罪すべきである。

表1は本人からのヒアリングをもとに整理したものだから、多少の記憶違いや聞き違いはあるとしても、重要なポイントでいくつかの差異が見られるのは問題だろう。たとえば再婚した実母が娘を四十円で売つた事実（A,d）は訴状にもB,Cにも出てこない。

戦前の日本でも、身充りされた娘は充春

業者の養女という形式をふる例が多くた

から、彼女の場合も典型的な身充りケース

だったと思われる。

その養父とともに中國へ行き、慰安婦に

なった事実もはつきりしないが、現地で転

売されたのかもしれない。慰安所の輸郭も

明確を欠くが、軍医の検診があつたこと、

利用料金の話がAに出てくるところから、

訴状だけが学順の生年を一九二三年とし

ているのも、気になる。韓国は戸籍制度が

完備しており、沖縄で亡くなった元慰安婦

の生涯を追跡調査した川田文子（赤瓦の

家）（筑摩書房、一九八七）には、本人に代

つて著者が本籍地の役場や近隣を訪ね、一

族の消息を調べあげる過程が記録されてい

る。

「一くありふれた慰安所の一つだったのだろう。

Bだけに、実父が日本軍に殺されたと

か、中共軍や光復軍と聞わりがあつたかの

ような話が出てくるのも、ふしぎだ。有名

になつて来日した時の証言なので、單なる

慰安婦ではなく抗日家でもあつたとPRし

たのかもしれない。

訴状だけが学順の生年を一九二三年とし

ているのも、気になる。韓国は戸籍制度が

完備しており、沖縄で亡くなった元慰安婦

の生涯を追跡調査した川田文子（赤瓦の

家）（筑摩書房、一九八七）には、本人に代

つて著者が本籍地の役場や近隣を訪ね、一

族の消息を調べあげる過程が記録されてい

る。

四種類の情報源を比べると、本人の生年月日もあやふやな裁判所への訴状がもつともお粗末という感じだが、全体を眺めて日本政府が責任を負い謝罪せねばならぬ部分がどこなのか、首を傾げる人が多かろう。とにかく韓国で娼婦予備軍と見られているキーセン出身者はますいと思われたのか、最初の報道ではこの点を伏せていたらしい。そればかりか、強制連行問題と取り組んでいるある開拓人やら、日本人伴隨せんせん出身の彼女を第一号にえらんだのは内閣調査室の陰謀ではないかと皮肉られた、と西岡力氏は書いている。

筆者もその頃、高木弁護士へ「もう少し説得力のある慰安婦はないのか」と聞くと、「実は私もそう思って韓国へ探しに行ってきた。追加分は良いのはかりです」と言わされたので、訴状で検分したが、似たりよつたりなので失望したことがある。

その一人である文玉珠の「一代記」がビルマ戦線 捕虜団の「慰安婦」だった私（構成と解説森川万智子、梨の木社）として今年の二月に刊行されたので、同じ要領で紹介しよう。

文玉珠の女一代記（著書から）

一九二四年四月二十三日、大邱に生まれる。両班（ヤンバン）の家系である父は独立運動で奔走していたが七歳の時に病死し、貧困生活へ。

十二歳の頃、大邱の料理店夫婦が来て甘苦に誘われ九州へ下働きをしていたが女郎に売られそうになり、半年で逃げ帰る。キーセン（娼婦）になったが十六歳の秋、路上で日本人と朝鮮人の憲兵、朝鮮人刑務の一行に呼び止められ詰所に連行された。もう一人の少女とともに翌朝別の憲兵と朝

日本財団とは、何者だ。

到底のないアフリカを、

穀物の自給自足をめざす
農業技術指導プロジェクト
「蓼川グローバル2000」。

ガーナでは、高カンパクの
トウモロコシの種を広め
タンザニアでは、牛が引く
農機具も販売しています。

お問い合わせ先
日本財団 広報部 3502-2374

日本財団
The Nippon Foundation
(財)日本船舶振興会の運営です
<http://www.nippon-foundation.or.jp/>

本人刑事が同行して列車で満州の東安へ。
朝鮮人経営の慰安所で軍人を相手に稼ぐ。
軍医の検診もあつた。一年後、主人に
「氣の母を見舞つてくると偽り逃げ出して
海、キーセンとして働いた。
東安時代の仲間二人に「日本軍の食堂に
からきに行こうよ、金もうけができるよ」
誘われ、母に無断で釜山へ。顔見知りの
本など三人の朝鮮人男性が引率して一九
二年七月十日出港、二日近くの娘たち
同船していた。
ビルマのラングーンにつき大邱組の十七
は、橋師団(四國編成の第五十五師団)
慰安所へ配属された。娘たちのなかには
たまたまされたこと松本にくつてかかる者も
たが、文たちは薄々察していたのでおど
かなかつた。
インド国境に近い最前線のアキャブ慰安
では、ヤマダイチコウという兵士と公認
恋仲になつたが、男は戦死してしまつ
。「朝鮮ビー」とののしつた兵とケンカ
なり突き落されて骨折し、三カ月入院し
こともある。
そのうち退却戦となり、ラングーンへ。
の頃には「利口で陽気で面倒見のいい慰
安婦」として終軍から兵隊までの人気を集め
ることもある。

波乱万丈の女一代記で、語り口のうまさ
は抜群、構成者の考証もかなりしっかりし
ているが、「真偽、定かならぬ部分もない
わけではない。
ハイライターは、ラングーンでけんかした
日本兵の刀を奪いとり刺し殺した事件であ
ろう。彼女を救えとテモまであって、軍法
会議の判決は正当防衛で無罪放逐という
「美談」だが、念のためラングーン憲兵隊
本部に勤務していた横田正夫少尉、藤井定
雄曹長に聞いてみた。

め、チップがどんどんたまつたという。
三年足らずで二万余円の時金ができ、三
千円を仕送りした。二千もあれば大邱に小
さな家が一軒買える。貧しい母に少しは楽
をさせてあげられると思しきにしていた
が、終戦で帰国してみると兄はその大金を
使い果していた。
戦後は軍需品の妻になり、一時は衣振
りよく暮したが、破産して売れ残子のキ
センへ逆戻り。しかし大学を出した妻子の
娘子がバクチで財産を使い果し、今は慰安
婦のため生活安定支援法による援助で無
料の政府借り上げアパートに住み、衣食住
には困っていない。

兵隊だが、聞いたことないなあ。作っ話じ
やないか」とのこと。
そこで「仮にあつたとすれば、どんな処
理になりましようか」と聞いてみると、
「四年から五年にかけてはインペリアル
戦敗北のあとドビルマは全軍終戦前に近
く、こんなことで軍法会議を開く余裕はな
い。殺された兵士は名誉の戦死にしてお
き、犯人はこつそり処分となりますかね
え」との返事であった。

他にもタイへ後退してアニタヤ陸軍病院
の補助看護婦をやっていたときも、文は意
地悪する日赤看護婦の詰所へ酒の勢いで殴
り込みをかけたが、軍医はとがめなかつた
と書いている。

熊本放送が九二年に作ったTV番組にも
登場して軍歌を披露したあと、「官沢を
ぶつ殺したい」とアピールしていたか
ら、彼女の気の強さとサービス精神は天性
なのかもしれない。
ともあれ、金学順、文玉殊の兩人ともキ
ーセンというプロなしセミプロの出身
で、強制されて愈々輝くに至ったわけではな
い。

、慰安所での生活をきいて過酷だったよ
うのはなさそうだ。

ほとんどが身売り?

他の朝鮮人慰安婦たちも訴状やヒアリン
クで見るかぎり似たりよつたりで、眞
偽を判断しかねる情報が多い。
現時点で登録している元慰安婦は百数十
人とされるが、撫養協が「自信を持つて世
の中へ送り出す」と序文をつけて刊行した
本(前掲のA)に十九人の証言を鉛筆墨が
分類整理した分析結果が発表されているの
で、要点を次に抜き出してみる。

(1)家庭の経済的背景……大部分は貧困家庭

(2)動員方法

a 軍人・軍属によって暴力的に連行……四

b 軍人・軍属によって暴力的に連行……四
c 誘拐致……民間人一件、軍人一件
d 勧誘二件、軍人・軍属によるもの五件
(大部分が「日本に行けば金になる仕事を
就ける」と説いたケース)
e 就業許可……民間人一件、軍人一件
f 就業許可……民間人によるもの六件、官
g 父親……民間人一件
h 勧誘二件、軍人・軍属によるもの五件
(大部分が「日本に行けば金になる仕事を
就ける」と説いたケース)

(3)料金受領の可否
a 代価を受けとった……三人
b 軍人から代金をもらつて管理人に渡した
が、一度も清算してもうつていてない……
七人
c 管理人に預けていた……四人
d 代金について知らない……五人
e 代金について知らない……八人
f 終戦前に帰還……十二人

(4)帰還状況
a 終戦後に帰還……十二人

(5)帰還後の生活
a 結婚……六人(のち全員が離婚)
b 同様または妻……八人
c 結婚せず……五人

さて、この分類作業を見ての感想は人に
より色々なうが、筆者が注目するのは親
族、友人、近所の人など目撃者や関係者の
裏付け証言がまったく取れていないこと
である。

調査に当つた高恵貞は「ハルモニたちに
会うために、私たちはソウル、京畿道をは
じめ慶尚道、全羅道、忠清道等、全国各地
を訪ね歩いた」と書いているから、傍証を
とるチャンスはあつたと思われるのに皆無
なのは、最初からその気がなかつた、むし
ろ回避したと考えてよいのではないか。

62

63

〈表2〉中国人慰安婦の被害申告

氏名	証言
a 李秀梅	15歳の時、4人の日本兵が自宅より、ロバで進圭社村の駐屯地石洞に連行、5ヶ月監禁され、赤ら顔の隊長以下に連日強姦され、右眼を失明、右足を折るなどの傷害を受けた。母親が銀600両を差出したが、効果がないので自殺、18歳で結婚
b 劉面煥	15歳の時、3人の漢奸が来て村人を集め、日本人の「毛隊長」が3人の女性をえらび、進圭社村の駐屯地へ連行。石洞に入れられ、まず漢奸がレイプし、隊長もレイプした。父親が銀100を持ってもらい下げ、40日後に帰宅、19歳のとき結婚
c 陳林桃	20歳の時、10数人の漢奸が来てロバで連行、李秀梅と同じ石洞へ監禁、中隊長以下にレイプされ、右足を折られた。夫が銀400と羊毛50頭分を持参し、7ヶ月後に釈放された
d 周喜香	19歳の頃、3、4人の日本兵が押し入り、進圭社村の石洞に入れられ、連日レイプされ、2週間(?)後に夫の元へ帰った
e 侯冬娥	22歳の頃、漢奸の村長が日本軍を接待した時、娘の身代りとして既婚の侯を提供。提点で連日暴行とレイプを受けた(1994年病死)

「朝鮮人」のなかで十三年を占めるト
就業詐欺の場合、甘苦でだました犯人はほ
ぼ全員が顔見知りの朝鮮人かと思われる
が、実名は出てこない。「日本人の手先と
して働いていた五十年代くらいの男」とか
「金という男」(韓国では人口の四割が金姓
といわれる)とばかりしてあるのは、「証言
者が意図的に事実を歪曲しているケース」
(序文)に配慮したためなのか。

(二)と誘拐拉致(一)を合計すると六件になるが、筆者の焼後感だと文玉珠、李善粉、尹頭理の三人にとどまる。しかも三年ともに官憲の仕わざとは思えないふしがある。文玉珠の場合、著書(既述)では連行したのは「日本人と朝鮮人の憲兵、朝鮮人の刑事」で、翌朝、「別の日本人憲兵と朝鮮人刑事」と列車に向乗して濟州へ向ったとなっているが、対協の証言(A)では「軍服を着た日本人」に連行され、翌朝に「普通の服を着た日本人の男と朝鮮の男が列車で同行」と微妙にちがう。何よりも訴状には、決定的材料であるべき連行の記述がまったく出てこないのである。

が「日本人経営の工場勤めの帰りに釜山南部警察署前で歩哨の巡査（日本人か朝鮮人が不明）に呼びとめられて署内に連れて行」という申し立ても、突飛すぎてにわなに信じられない。

戦後はやみドル高発、アヘンの密輸などもやつたと書いているくらいの女性だから、証言の信頼性は低いと考えてよい。

また売買つまり身充りは一件しかないとされているが、筆者の判定では少なくとも金学順、朴順愛、李用女、李海雨の四人が多いのは、当今のわが国における風俗嬢の事例を想起させる。

連行（國行）者は朝鮮人の來者かプローナーと判定したい。

李貴粉の場合、十二歳のときゴム跳びをしている最中に「日本人と朝鮮人通訳」に誘拐されて趙夫婦の家へ連れこまれ、三ヵ月監禁されたのち台湾の慰安所へ行つたといふ大筋は訴状も挺対協も一致するが、官憲は無関係であることが確実である。

もつとも、彼女たちが娼婦ないし慰安婦に落ちこんだ事情を正面に答えてくれるのを、期待する方が無理なのかもしれない。
べ・ポンギという慰安婦に数年間、密着取材して『赤瓦の家』という力作にまとめた川田文子さんも、幼女時代と沖縄での慰安婦生活は丹念に振り起こした。

廿四山の豪傑たち

が一人二千戸の被徴を求めて東京裁判へ
提訴したのは九五年八月七日であるが、最初
の名乗りは九二年八月にさかのばる。そ
の年の十二月には万愛花が来日して、支援
グループの会合で証言しているが、中国政
府は彼女たちの動きが反体制派に利用され
るのを警戒したのか、弁護団の現地立入り
を許可せず、提訴はおくれた。

万愛花以外の四人は山西省盂県の山村に
生れ、いずれも逸走山村に駐屯する日本軍
に拉致監禁され、慰安婦にされたと申し立
てている。しかし、いずれも生年月日すら
はつきりせず漠然とした証言なので、日付
が明確で訴状の他に日本での証言記録もあ
る万愛花の例をとりあげることにする。

村は彼女たちの動きが反体制派に利用されるのを警戒したのか、弁護団の現地入りを許可せず、捜査はおくれた。

万愛花以外の四人は山西省盂県の山村に生れ、いすれも進圭社村に駐屯する日本軍に拉致監禁され、慰安婦にされたと申し立てている。しかし、いすれも生年月日すらはつきりせず漠然とした証言なので、日付が明確で訴状の他に日本での証言記録もある万愛花の例をとりあげることにする。

万愛花の体験（訴状と証言から）

一九二九年十二月二日、漢族として内蒙古で生まれたが、黄しかったので四歳の時に賣賣姐（身売りによる一種の奴隸妻）として、山西省盂県羊泉村の李五学家に売られた。

十一歳の時から抗日運動に参加していたが、十五歳の一九四三年六月、日本軍に捕えられ、進圭社村の換点に運行された。石洞に監禁され、赤ら顔の隊長や歯の長い将

校や兵士に八路軍の情報を吐け、と拷問され輪姦された。

三日後に逃げ出し村へ戻ったが、八月に再び捕えられ、一ヶ月後に逃げたが十二月に連れ戻された。骨を折られ失神したあと川に棄てられたが助けられた。

しかし不具同様の身となり、事実上の夫（妾？）である李五小は私を別の男に売ってしまった。現在は村を離れ一人で太原に暮している。私は日本軍を死ぬほど憎んでいる。

さてこの中立して目を引くのは、彼女が幼婦に喜慶姐として売られた経験を持つこと、八路軍の抗日ゲリラ活動と関わりがあつたらしい点であろう。

幼い女兒を喜慶姐として売買する風習は較前のわが國でも見られたが、今では想像を絶した話になっている。しかし、中国には現在もこの種の黒幕が残っているらしい。十月三日付の朝日新聞は、公安省幹部からの取材だとして「人身売買、日々相人仕事探しの女性だます。貧困地区に嫁を提供」という上海特派員の通信を掲載している。

それによると、この五年間で、だまされ

く、森重長はむしろ青白い細身の男だった

「石洞のようなものはなかつた」

「いくら落ちぶれても、身の代金を取り立てるなど考えられない。わかれ、統殺ものです」

「日本軍を力サにきた不良中国人の仕わざとも考えられる」

筆者は、慰安婦の利用状況についても聞

いてみたが、旅团司令部のあつた陽東、大

隊本部のあつた平東などには朝鮮人のいる

慰安所があり、西洋館にはショートルと呼

ばれた中国人の娼婦がいて、部隊の中国人

通訳が「ビーベー」の經營を兼ねていたらし

い、進歩社には朝鮮人の巡回慰安婦が一、二回来たことがあるとのことだった。

平東にいた山本泉氏（第四中隊）による

と、強姦は時に起きたが、ある軍曹の場合は面通しのうえ中隊長が百円払って示談にした。また中隊長が村長を介して慰安婦の調達を依頼したというから、似たような事例は他にもあつたかと思われる。

そこで問題になるのが、彼女たちの陳述に顔を出す「漢奸」（対日協力派）の役割であろう。彼らは村長をよくむ村の幹部だ

て売られた八万八千七百五十九人が当局の手で救出されたが、うち児童が約九百一十五人を占めている。おそらく未発見の被害者は、この何倍もあることだろう。

後で見るフィリピンでもそうだが、抗日ゲリラ関係者との攻防は、生死を賭けての闘争だけに、取調べにさいし苛烈な拷問や虐待が加えられることは珍しくなかった。

彼女は、その犠牲者かとも思われるが、実際に迫るため他の四人の申し立ても検討し得よう。

すでに触れたように、李秀梅以下の五人（表2参照）は、孟東の隣りあう小さな山村の出身だが、生年が不確かで事件の起きた時期が特定できない。だが万愛花は陳林桃、劉面娘と同じ石洞に入れられたと述べ、陳林桃は李秀梅と一緒に証言しているので、彼女らはほぼ同じ時期、すなわち一九四三年頃に被害に遭った可能性が高い。

そこで、この時期の進歩社村に駐屯していた日本軍の調査出しを試みたが、孟東（太原の東方）一帯を守備していた独立混成第四旅団の独立歩兵第十四大隊第一中隊は、四年に新設の第六十二師団に編入され翌年、沖縄で戦死していることが判明した。

つたり、警官だったり、保安隊員や密偵、通訳、その他のいかがわしい連中などだが、八路軍に通じてゐる者も少なくなかつた。

終戦後、彼らのなかには処刑されたり逃亡した者もいて、そのしきりは今も地域社会に影を落しているようだ。今年五月に孟東を訪問した戦友会グループ（NHKが同行取材）は現地で歓迎されたが、旧知の人たちとの再会を要望したところ、県庁の幹部は綾部團長へ「元対日協力派の人たちは出てこないでしよう」とやんわり断わったそうである。

彼女たちの行動に、中国の政府や自治体当局が冷淡で、把握していると思われる駐屯部隊の隊長名などを教えて、弁護団の立入り調査をも担んだのは、事件を振り起すこととでせつかく落ちついてきた村の安寧を乱したくないからだろうか。

フィリピンの慰安婦たち

フィリピンの元慰安婦（被害者）十八人が高不弁護士らを代理人として東京地裁へ控訴したのは、一九九三年四月二日であ

それでも戦友会を遠じ探した結果、沖縄へ移駐する前に内地へ転勤した第一中隊、第二中隊は住民二、三百人ばかりの小さな山村で、日本軍は民家や廟に分宿していた。この時期の治安は良く、他の地区へ出動する八路軍の討伐作戦を除くと周辺では戦闘はなかったという。

彼女たちの申し立てについて感想をと、三人とも「ありえないことだ」と強く否定した。その理由は次のようなものである。

「進歩社は対八路軍の最前哨ポストで、民心を失つたら通謀されてたちまち全滅する」

「今井、竹中兩中隊長や森重長は夏紀にやめました。」

「半年後には二十八人が追加され、計四十六人となつた。」

「九二年七月に結成された女性団体「タスクフォース」（のちリラ・ピリビーナと改称）の呼びかけで、九月に第一号として名乗りをあげたマリア・ロサ・L・ヘンソンは、「韓国の慰安婦が声をあげたと知つて決心したわけです」と、松井やより氏に語っている。

彼女たちの体験記録には、ヘンソンをふくむ二十一人の証言を集めた『フィリピンの日本軍（慰安婦）』（明石書店、一九九五）もあるが、ここでは一冊の回想記（藤田ゆき訳『ある日本軍（慰安婦）の回想』岩波書店、一九九五）を刊行したヘンソンの申し立てを紹介する。

ヘンソンの苦難（著書から）

小作農家に生まれた母親が十九歳の時、女中奉公に出ていた先の大正主ヘンソンにレイブされた。直後に抗日人民軍のフク團に加入、アンヘレス地区で伝令や物資調

三島由紀夫研究会

代 表 三 輪 和 雄
正論の会

日本世論の会

代 表 中 村 祐
昭和史研究所

日本世論の会神奈川県支部
日本世論の会東京支部

社取代
總長後妻

藤 井 元 秀
(株)マスコットロダクション

正論の会

顧問 富士信夫
正論の会

代 表 筒 井 義 人
大和正論の会

昭和の日ネットワーク準備会
竹の会



ビルマ・ミャンマーで 見た慰安婦

水上編三

夫婦で慰安所を営む

命ぜられ、情報収集に配属された。その任務の中に、慰安所の管理事務があった事は事実であった。

先般、新聞に昭和十九年十月、ビルマのミャンマーで保護された朝鮮人慰安婦の記事が載った。當時、この種の任務を担当していた一人として、私の記憶の中から事實を記載したいと思う。

私は昭和十八年六月頃、ミャンマーで見た慰安所を中止して、私の記憶の中から事實を記載したいと思う。

新聞紙上では、如何にも軍が微発して来て、運営していく様に表現しているが、現地の我々は、その様な事は誰知らず、家庭の設備等物質的絶対必要な事をしただけで、軍隊の日常生活と少しも変わらないのであった。

当時、ミャンマーには三軒の慰安所が開設されていた。市街の商業的位置

し、御遊樂、花屋、娼州屋の三軒である。但し娼州屋は屋号を記憶を失したので、樓主の田身地が娼州屋区だった事を思い出し、仮に娼州屋とした。慰安所開

係の書類は昭和十九年八月二日に記載した時に施行したが、一二、三日後の数回により家屋が焼け、記憶と共に焼失してしまひ、後悔する事になる。進進城の樓主は京都出身といふ夫婦者だが、主人は南シナの廣東、現在の広州付近に結婚を基礎に行き、い丈だ帰つて

木上謹三氏 大正十年(一九二一年)、
福岡県で生まれる。昭和十五年十二月、
小金千六太郎隊・調査隊に入隊。四十六
年三月、南シナ・淡水の歩兵第百二十四聯
隊に。同二十一年七月復員。元金社員。



正仏教ルネッサンスを掲げ
する道明大僧正は、心に、
一寺を理念として、ある
て宗派をひらくず、会期
で全一仏精神を主柱と
する本会が、日本ではじめ
て運営座を開講。だ

れでも妥協でき、希望により借入を得ることもできます。専業、パートなどにあっては、生計を立てる人や、支えとすると共に経営する人などさまざまです。一、二年を目途に返済する指導。スクーリングもあり

一安所は文字通り前線より一時帰還した者達には受け替えのない想いの場所であった。明日をも知れぬ命をこの一時につけ込む兵士達は金に糸目を付けず文払う。彼等は二、三ヶ月分の俸給を持って居たが、それでいて、後方にモール、モニン方面に降下した敵空挺部隊に急襲を命ぜられ、大隊が殲滅するほどの損害を受ける。

来ない。宝の持ち原れだからだ。憲安局達も兵士達の心靈氣を受け止り、稍一杯のサービスをするのであった。

特に広東姑娘は、ウブで常に笑顔で接し、兵隊達を喜ばしてくれた。断つておぐが、兵士達の娘で憲安局に行つていった訳ではなく、一度も足を踏み入れる事もなく、食堂やビルマ人の家で遊んで帰る者もいたのだ。

憲安所の設備は、勿論軍が設営したものだ。軍隊には、地方で建築関係に従事していた者や、木材運送の職種の持ち主がいるので、不自由はない。憲安局にしては個室が与えられ、プライバシーは守ら

と、隣の部屋の女も呼んで、ビルマ酒を飲んだりしてサービスするのだった。これは、重要な事だが、医務室では必ず身体検査をして、生理や性器の異状を発見すると、命令受領者に会報として伝達し、整容禁止を命ずる。従つて慰安所によって、この女達が窓口に座って料金を受け取る事になる。

当時の記憶では兵隊一円五十銭、下士官二円五十銭だったと思う。しかし兵隊、下士官はこれの他に各部屋に於てサービス料を渡すので、彼女達は、トランク一杯に軍票を貯めていたのを見た事がある。

強制連行をされたといふ記事がある

な弟子き者で、ビルマ酒を作つたり金堂を
修善したりと大いに稼いだが、これも後
でど破算になるのだから氣の毒でならなか
い。

一番奥、イフワゾ河の堤防状の道路の
下に在るのが、信州屋である。店主は伊
州地方の出身でコツコツと話す言葉に困
き倒れなものである。中年夫婦であつ
た。

ある日、師団司令部より各憲兵所の來
一ヶを調査報告せよ、との警報命令が來
た。

電報なのでその内容は計り知れない。
この状況下で何を知りたいのだろう、と
疑うが、とにかく調査に行く事にする。

昼食を見ると、他の慰安所と比べ、大分お粗末である。女達に、何日もこうなのか?と尋ねると、「そうだ、そうだ」と答える。

他の嬢主達は稼ぎの中から金糧を貰つて給養していくのに、何故だと思ひ、漠然の女将にあなたの方が一番悪いですよ、と話すと、「経理の小川安中尉さんに話して食糧の増加をお願いして下さ」「」と連絡して来る始末である。押し問答があつたが、姑娘達の金算を見れば放つておく訳にはいかない。

翌日、経理室に行き、仔細を話すと、「これ以上は出せんぞ」と言ひながらも増配してくれた。これで各慰安所の給養状態が同様となり安心である。

兵分遣隊等直接指揮下でない多數の部隊
が駐屯していた。
従つて昭和十九年五月十七日の敵空襲
部隊との戦闘では正規の歩兵は約三百名
ほどで、増援が到着する迄、悪戰苦闘す
る事になる。
即ち第一大隊の主力を要南方面の通路
隊の指揮下に入れ、第二大隊は、北方ナ
ンブラバム方面の警備に派遣し、英軍に
襲撃されたカチン族のグリフ作戦に悪戦
苦闘を重ねていた。

花屋の店主は、朝鮮半島慶尚南道の出身で、同姓を十数人程抱えを夫婦名で、あつた。女盛りで元芸者だったと噂される女将が、広東省に十数人を抱え健氣に営んでいる。

漢連櫻の女将は容易に承知しないので、花屋に行く事にする。ここは、食堂、酒造りと稼いでいるので何の異議も言はず、スンナリと承知する。また花屋と同様、信州屋も承知してくれた。

当時のミイトキーナ守備隊は、歩兵一百四十五隊が主力であったが、駐屯地には駆逐本部と各中隊の強襲部、そして八師団の第二野戰病院の半分、軍配属飛行機整備隊、軍通信隊、航空通信、等

300

が、ある慰安婦は朝鮮の仁川にてた時に朝鮮人が来て釜山に行けば金になる仕事があると説かれ、来たのだ、と話していた。問題が連れて来た事になる。

嫁々として人待ち原

先日も、当時の娘女と、強制的に慰安婦にされ、金も貰わずに肉体労働をさせられたとするならば、何故あれほどニコニコと笑顔で座答していたのだろうか、と話し合つた。迎日接客させられたとは考えられない。

私は、毎日の様に巡回に行つていたが、彼女たちは昼間は、嫁々として人待ち組であった。

昭和十九年八月一日、ミイトキーナ寺

羅院は遂に対岸へ撤退する事になつた。

当時の状況は想定するが、何故か慰安婦

達の面倒は、兵器技術者の原田種英中尉

以下の延員が見る事になつた。戦主を含

め約五十名程が羅院に丸木舟に分乗しイ

ラワジ河を渡河する事になつた。私は翌二日の深夜軍旗と共に渡河し、同一行動は出来なかつた。

二日後、ペーモに向ひ転進命令が発令されるが、彼女達の多くは、ラフクに入れた軍票の軍みど、西三に亘り増水した河を渡るため一人、二人と募集し、米軍に保護された所である。

どうして救ひの手を差しのべてやれなかつたかと悔やまれるが、兵隊達も途中で過酷や掠奪の兎免した行軍で体力が消耗し、マラリア、病気、負傷と四苦八苦の状況であつた。

約四十日間の航行の末、ペーモに到着したのは、羅院の女将と朝鮮人慰安婦六人程で、彼女達は、兵隊要員の原田種英中尉が引率し、マンダレーを経由して、ファンゴーンへ渡航した。

戰後、ある戦記著述でミイトキーナで保護された慰安婦達の写真を見て、ホントしたものだ。

渡航後の女将は終戦後本内地に帰還し、東京近郊に移住してゐたそろは、作り戻も益をしないと思う。

旧ソ聯は開港場大時、多数の日本人婦女子に暴行を加え、佐世保に上陸した時に中絶をした人がいて、当時の医者が驚いていたとある医療文書してゐた。

慰安院の慰安は算られ、敗戦國の事実は正しく報道してもらはず、政府は、唯平身底頭、ベロベロと頭を下げて居る。

昔の歌ではないけれども、意見聞く時は頭を下げる、下げりや意見が通りこす、

し、東京近郊に移住してゐたそろだが、ミイトキーナ当時の慰安院長丸山房安大佐がしばしば姿を見せていたといふ。



昭和49年発足

正論の会・代表 三輪和雄
〒107 東京都港区六本木3-4-5-505
電話 03-3505-6585

皆様のご参加をお待ちしております。――

【正論を聞く場】

場所▼東京・大手町・慶應会館

(代) 03-3311111-117171

交通▼地下鉄・丸の内線・半蔵門線・

千代田線・東西線・三田線・大手町下車すぐ

参加費▼一般一五〇〇円 学生一〇〇〇円

【正論を語る場】

場所▼東京・ルノアールお茶の水駅前店 (代) 03-3319-19069

戦後補償実現！FAX速報 No.142.96.11.2.

編集・発行：戦後補償ネットワーク 電話：03(3237)0287

郵便番号：102 東京都千代田区飯田橋4-5-16-402

電話：03(3237)0217

賃貸料：月額1000円（切手可）郵便振替：00130-6-172084「戦後補償ネットワーク」

銀行口座：東京三菱銀行飯田橋支店（普通）071-0151945「戦後補償ネットワーク」

◆金原吉さんに厚生年金戻手当金35円支払われる

長崎市の造船所に強制的に従事された金原吉さん（73、韓国人・釜山市在住）が終戦直後に受給するはずだった厚生年金の戻手当金の支給を求めていた問題で、社会保険庁は29日、手当金35円を金さんに支給した。外務省が日韓協定に抵触する恐れがあるとして保留されていたが、同庁が厚生年金法による権利の発生時期を、終戦直後から支給請求をした時点（94年）に変更したため、外務省も協定に反しないと判断したという。金さんはこの日、長崎北社会保険事務所で受領後、同事務所長に対して「現在の現場労働者の初任給は、当時の私の賃金の2,266倍。置き換えると35円は79,310円になるため、今回は本来受領すべき金額の一部として受け取る」とする文章を渡した。35円の支払いを求めてこれまで数万円の旅費を使ってきた金さんは、「わずかな金額だが、支給は何ともうれしい。韓国人にいる私と同じような境遇の人にも受給を勧めたい」と話した。金さんは三菱重工業長崎造船所で働いていた45年1月から数載までの約7ヶ月間、強制加入の保険料25円95銭を納めた。戦時で事業所が廃止され、受給資格を失ったが、8月末の厚生省告示で「戻手当」を受給できることになった。当時の厚生年金保険法によると戻手当金は35円。94年4月、長崎北社会保険事務所に手当金の支給を請求したが、受給権の時効消滅を理由に同事務所は不支給を決めた。金さんは、これを不服として社会保険審査会に再審査を請求。同審査会が昨年「受給権の時効が成立する前に時効を定めた旧厚生年金保険法の規定が廃止されている」として、支給を通知した。ところが、外務省が「日韓協定で戦時中の西側の請求権などは解決済みなので、検討が必要」と指摘し、支給は保留されていたが、今年8月に長崎を訪れた菅原人厚生大臣に金さんらが訴訴、この度の支払いに至ったようだ。いずれにせよ、韓国人に対し戦後の債権支払いが実現したのは初めてのこと、今後の運動への好影響が期待される。（翻10/30など）

◆自社さ、「村山談話」賛成で一致、「国民的儀」は削除

自民、社民、さきかけ三党は29日、第二次憲政本政権を前提にした三回目の政策協議を行ったが、歴史認識に関しては「国策を誤り、アジア諸国に多大の損害と苦痛を与えた」とした昨年8月の村山談話を賛成することに合意した。しかし、社民党が主張した「内外の戦争犠牲者に対し、道義的責任に基づく国民的な儀を行なう」という部分については自民党が難色を示し、見送られた。（翻11）ただ、政策合意文には「戦後問題の誤された認識について検討する」との一文が入れられており、現在「休眠」状態の「与党戦後50年プロジェクトチーム」が再開されるかどうか注目される。

◆菅原相「平和祈念館とアジア資料センターの並行建設を」

菅原人厚生大臣は29日、閣議後の記者会見で、厚生省が東京・九段高で28日から着工を强行した「戦没者追悼平和祈念館」（仮称）の内容について、「国内的体験という問題に限定的に整理されており、一方で戦後50年の資料館（アジア歴史資料センター）の話が事实上避けていない。平和祈念館だけが點いて、資料館が進まないと、必ず国際問題になるとだろうという懸念をもっている」と述べた。また、菅原相は祈念館の展示内容について「厚生省としては漠々と進めてきたが、戦後50年の問題として見ると、もう少し全体としてきちんと対応をすべきだと政治家として考える」と指摘。記者団からの「日本によるアジア侵略、という視点での資料展示を想定するのか」との質問に対し、「そういう問題も含めて全体としてということだ」と述べた。（翻11）

◆化学兵器の処理に12月に日中政府協議

日中両政府は次官級協議で、旧日本軍が中国に遺棄した化学兵器の処理について、12月上旬に北京で政府間協議を開始することで合意した。旧日本軍が放置した化学兵器は200万発に上るともいわれる。昨年から日本政府が実地調査を進めてきており、具体的な処理方法については中日側と話し合って決めることになっている。協議では、化学兵器処理工場の建設場所が当面の課題として浮上する見通しで、日本側は化学兵器が最も大量に遺棄されている吉林省敦化市ハルバ巣付近に建設を希望しているが、中国側は日本での処理を検討するよう求めている。（翻11）

◆元「慰安婦」文玉珠さん死去

韓国の元「慰安婦」として補償請求裁判を争ってきた文玉珠さんが26日午前5時ごろ、心不全のため亡くなった。72才だった。文さんは損害賠償や、軍事郵便料金の支払いを求めてきた。この日は日本から支援者が訪問した直後だった。裁判の原告でなくなった韓国人被害者は初めて。

◆「新・ゴーマニズム宣言」について、福岡の市民グループが抗議声明を準備

「SAPIO」紙上に掲載されている「新・ゴーマニズム宣言」での「慰安婦」問題に対する偏重記述が物議を醸しているが、著者の小林よしのり氏の地元である福岡の市民グループが、「SAPIO」紙の回収、被害者への謝罪、單行本化しない確約を求める抗議・申し入れ文を準備している。賠償裁判を支援する会などが呼びかけたもので、11月10日前後に記者会見をもつて予定。同支援する会では、抗議声明への賛同団体・個人を募っている。問い合わせは092-713-1879賠償裁判を支援する会。

◆「国民基金」中止を求めて12月に集会予定

「慰安婦」への「償い」として進められている「国民基金」の中止を求める市民グループが、12月に東京で「被害者に拒否された「国民基金」を中止せよ！12・15」集会を開催することを計画しており、実行委員会への参加を呼びかけている（別紙参照）。一方、「国民基金」は10月29日に会合を持ち、「慰安婦は商行為」などとする保守派の説明に対して声明を出すなどを検討した。

◆<案内>フィリピン人元「從軍慰安婦」補償請求裁判第13回開廷弁論

11月8日（金）午後1時10分東京地裁631号法廷。問い合わせーフィリピン人元「從軍慰安婦」を支援する会03-3237-0217

被害者に拒否された「国民基金」を中止せよ！

-市民と国会議員の手で国家補償の実現を- (仮称)

〈実行委員会への参加のお説い〉

職後51年。「難民婦」問題の解決策として日本政府が旗を擧げて進めてきた「女性のためのアジア平和国民基金（以下「国民基金」）」は、8月14日、一時金の支給を開始しました。しかし、フィリピンの数名の被害者を除き、ほとんどの被害者はこの一時金の受け取りを拒否しています。これは、「国民基金」の押しつけによって、国家責任を逃れようとする政府の姿勢を、多くの被害者が見抜いているからにほかなりません。

高齢で、弱気がちな被害者たちにとって、「国民基金」が支給しようとする200万円を拒否することは、大変な決断です。連れ立く被害者の気持ちをつぶ込んで、「国民基金」の受け取り説得は今も続いています。

しかし、名著と尊厳の回復を求める被害者たちの願いは、日本政府が境界を認め、赔偿するまでに決して実現されないでしょう。あくまで「国民基金」を拒否する被害者の決断に応え、「国民基金」の中止と国家補償の実現を求めていきたいと思います。

クララスクミ勧告の受け入れや、立法による解決を求める運動も少しずつ広がろうとしています。

「国民基金」を拒否した被害者の決意を受け止めつつ、正しい解決に向かって新しい一步を踏み出すために、私たちは「被害者に拒否された『国民基金』を中止せよ！-市民と国会議員の手で国家補償の実現を」（仮称）を、12月に開催しようと計画しています。私たちは、この集会と一緒に作りあげてくださる実行委員を募っています。ぜひ、実行委員会にご参加ください！

■日時：1996年12月15日（日）午前10時から

■場所：東京ウイメンズ・プラザ・ホール

■第一回実行委員会：11月6日午後7時～日本キリスト教会館（地下鉄早稲田駅下車）

■よびかけ：報復補償実現キャンペーン 96-03-3237-0217

つぶせ「国民基金」実行委員会 03-3203-0374

* 実行委員会に参加してくださる方・団体は、以下の用紙をご利用の上、

FAX 03-3237-0287 までお願いします。

----- <キリトリ> -----
「被害者に拒否された『国民基金』を中止せよ！12・15集会」実行委員会に参加します。

■お名前（団体名）：

■連絡先：

□

□

■第一回実行委員会に： 参加 参加できません
(○で囲んでください)